

各党派新年の抱負

自由民主党

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

新型コロナウイルスの猛威により私たちの日常は一変し、健康面をはじめ、日々平穩に暮らす生活そのものが脅かされています。こうした事態に直面し、我が党は区民の皆様にとって必要な対策を取りまとめた緊急要望書を8次にわたり区に提出し、国や都の対策に加え、区独自の対策として、PCR検査体制の整備・充実や医療機関・福祉・保育現場等の支援、区内事業者の支援、子育て世帯の支援、子どもたちの学習支援等に関する取組について、確実な実行につなげてまいりました。

今後、区政運営が一層厳しさを増す見込みの中にあつて、徹底した行財政改革を断行し、必要な財源を確保しながら、これまで以上に、感染症対策をはじめ、弱い立場の方に行政の光を届ける福祉施策、子どもたちの健やかな成長を支える環境

整備、施設等の老朽化対策、持続可能な街づくり等、重要かつ困難な課題の解決に向けて、精力的に取り組み、着実に前進させてまいります。

私たち自由民主党荒川区議会議員団11名は、このような認識の下、353項目にわたる令和3年度予算要望書を西川太一郎区長に提出しました。本年も、区民生活の一層の向上と安心して暮らし続けることができる地域づくりに向け、全力を尽くしてまいります。



ICTを活用した子どもの学習機会の確保

公明党

区民の声 区政を動かす潮流に

新型コロナウイルス感染症による未曾有の国難に見舞われる今、政治に求められるのは、希望と励ましを広げていくことです。その取り組みをリードできるのが、生命・生活・生存を最大に尊重する人間主義を貫いてきた公明党です。

1人一律10万円の特別定額給付金をはじめ、売り上げが半減した事業者に手当てする持続化給付金の創設や、休業手当を支給した企業への雇用調整助成金の拡充など、数多くの政策を推進してきました。

公明党の取り組みの原動力は、全議員に脈打つ「大衆とともに」の立党精神です。接触を控えた

ことで、弱まった人のつながりや絆を再構築するには1対1の対話が不可欠であり、あらゆる手立てを尽くして地域に活力を取り戻す必要があります。

本年もネットワーク政党・公明党の強みを最大限に発揮し、国や都との連携で区民の皆様のご期待に応えてまいります。



新型コロナウイルス感染症対応職業相談窓口にて離職者支援の様子

日本創新党

コロナ禍でも日本人の幸せの源である四つの縦糸を守り引き継ぐ観点で政策に向き合います。主軸を保ち衆知を集め、大局観を持ちながら地域活動に邁進！リスクと損失の冷静な判断を心がけつつ

自由民主の会

新年おめでとうございます。本年は東京オリンピックがあります。コロナ対策、少子高齢化、人口減少、デフレ対策等課題の多い年です。区民の皆様健康長寿、安心安全をお祈り申し上げます。

日本共産党

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、コロナ感染拡大の下で、医療はじめ国民の命を守る社会システムの脆弱さが浮き彫りになり、政治の在り方が大きく問われる年となりました。いま感染拡大を抑え、命と暮らしを守ることが緊急に求められています。菅政権の「自助」を強調し、公の役割を放棄する政治では命も暮らしも守れません。市民と野党の共同をさらに発展させ、命を守る政治の実現をめざします。区政においても、コロナ危機下での大規模再開発推進を止めさせ、感染抑止とくらし応援を第一にするため▽PCR検査体制の抜本的拡大・学校、保育園など社会的検査実施と保健所の体制強化▽事業継続へ

の区独自支援▽低所得世帯はじめ区民への経済的支援や家賃助成の創設など緊急対策の実現に全力を尽くします。また、コロナ後の社会も見据え、「自己責任」でなく社会的に連帯し、ケアに手厚い荒川区をめざし、みなさんと一緒に明るい希望きり拓く一年にする決意です。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。



◀検査数が増大しているPCRセンター内部の様子

立憲・ゆい・無所属の会

新年のご挨拶を申し上げます。この度、新会派を結成致しました事、ご報告申し上げます。

さて、新型コロナウイルスにより生活様式が一変しました。刻一刻と状況が変化の中で感染リスクを背負いながら業務に当たられている医療従事者、介護従事者を初めとする社会生活に欠かせない職業の皆様にご心より感謝申し上げます。

未だ、収束の見通しが立たない状況下において区民の生活、区内事業者の経営は極めて厳しい状況下にあります。このような時にこそ、国、都、区の施策を総動員し、この難局を乗り切っていかなければならないと強く感じております。

今後も一人ひとりの気持ちに寄り添い、お互いに支え合う社会を目指します。

竹内あきひろ、清水ひろし、久家しげるは荒川区に住んでいて良かったと実感できる区政へと本年も取り組んで参ります。

維新・あたらしい党

新年明けましておめでとうございます。2020年は新型コロナウイルスが世界に蔓延し、感染症の脅威に晒され、大きな混乱に陥った一年でした。荒川区の感染症対策について、当会派からは区長に宛てた緊急要望書を2度にわたって提出し、感染症に関する情報公開や定額給付金の早期給付、保育や医療、介護の現場の声を区政へ届けることに尽力して参りました。感染症対策以外にも、HPV9価ワクチンの普及啓発、オンライン授業の推進や選択登校制度、子どもの運動機能維持、野良猫対策、待機児童対策などに取り組み、コロナ禍の中でも、より良い区政の実現を目指して具体的な提案を行なってきました。本年も、議会の中では忖度の無い議論を行い、是々非々の姿勢で荒川区政に臨んでいきます。SNS等を活用した情報発信と意見聴取にも一層力を入れて参りますので、2021年もどうぞ宜しくお願い致します。

あらかわ元気クラブ

コロナ禍の厳しい情勢、「介護報酬改定による利用者負担増や後期高齢者の医療費2割負担増に反対!」《生きられる町・暮らせる政治》看護師・ケアマネとして現場の声を届けます。河内ひとみ

